

四旬節を迎えて

主任司祭 吉池 好高

今年も3月1日の灰の水曜日をもって、四旬節を迎えています。4月16日の復活祭に向けて、洗礼志願者の方々とともに、洗礼によって受け入れ、その中に生き始めたキリスト教の信仰の世界にあらためて心を向けてまいりましょう。

四旬節は回心の時と言われていています。「悔い改めて、福音を信じなさい」。灰の水曜日に額に灰を受けたわたしたちに司式者はこのように呼びかけたはずです。このことばは、マルコ福音書に記されているイエス・キリストのみことばから取られています。「時は満ち、神の国は近づいた。回心して福音を信じなさい」(マルコ1・15)。厳しい冬の寒さが去って、春を迎えるように、今や救いの訪れの時を迎えているのです。父なる神は、その御子を遣わされて、この世の寒風に晒されて、身を固くしているわたしたちをご自分の懐のぬくもりの中に抱きとろうとしていてくださるのです。イエスのお話になられた放蕩息子のように、父なる神の懐のぬくもりを思い出して、その懐のもとに立ち戻ることができますように。この四旬節が、わたしたちにとってそのような回心の時となりますように。わたしたちの教会共同体が、そのような父なる神の懐を感じさせる場となりますように。全ての人をご自分の懐に招きよせようとしておられる父なる神の現存の場となりますように。父なる神がその御子を遣わして、人々の中にもたらそうとされた父なる神がそこにいてくださる神の国がわたしたちの間に広がってゆきますように。わたしたちの教会共同体がそのような神の国を証しする場となりますように。一人ひとりのわたしたち皆をかけがえのないご自分の子らとして呼び集めてくださった父なる神の愛のぬくもりがわたしたちの間に広がってゆきますように。

四旬節の初めにわたしたちは、一人ひとり額に灰を受けました。それはわたしたちの人間としてのはかなさを指し示すためのものです。「あなたは塵であるから、塵に戻ることを覚えなさい」。塵に戻るしかないわたしたちに復活のいのちの息吹を吹き込み、新たに生きる者としてくださった主キリストが、わたしたちの回心の道を導いてくださいますように。アーメン。